

平成29年6月21日の理事会にて理事長の交代がありましたので、就任と退任のご挨拶を掲載いたします。

緑の中で—ご挨拶に代えて—

社会福祉法人日本心身障害児協会 理事長 河 幹夫

このたび、6月21日の法人理事会に於いて、理事長に選任されました。前任の山川常雄理事と同様、ご支援いただきますよう、よろしくお願い致します。と言いましても、私は山川理事とは異なり、この法人はもとより、社会福祉の実践の場に身を置いた経験を有していません。厚生（労働）省に34年、大学教員10年の経験ですので、近くで仕事をしてきた自負はありますが、必ずしも福祉実践の中で生きてきたわけではありません。日々の仕事の中で、皆様方から学んでいきたいと考えていますので、よろしくお願い致します。

私の好きな言葉が二つあります。ひとつは「矜持」、もうひとつは「召命」です。「矜持」は、辞書にある「誇り」、というよりも「責任」に近い言葉だと思っています。「召命」はキリスト教の世界では「神様から命じられたこと」という言葉ですので、丁寧にそれに従いたいと考えています。

この10年、神奈川県立保健福祉大学で4学科、一学年250人の学生に保健・医療・福祉論の講義をしてきました。それとともに社会福祉学科の学生、各学年5～6人のゼミ生を受け持ち、卒論だけでなく、全国の福祉の学びをしてきました。先人たちの歩みと今現在の活動など、多くのことを学生と共に学び続けてきました。



理事長 河 幹夫

半世紀前、小林提樹先生が重症心身障害児施設、島田療育園を構想されたときの大胆さと崇高さを思い、困難な中を歩んでこられた利用者の方々、そのご家族、そして職員の尽力に思いを馳せまします。そして皆様がそれぞれの幸せに近付いていって欲しいと思うのです。願うのです。ともに生きていきたいと思っています。感謝とともに。

理事長退任にあたって

社会福祉法人日本心身障害児協会 理事 山川 常雄

このたび、6月21日をもって平成17年6月より実に12年間にわたって、初めての常勤として努めて参りました社会福祉法人日本心身障害児協会理事長を退任致しました。振り返ると、この様な永きにわたって理事長の重要職につくとは思ってもよらぬことでした。即ち

平成17年2月、当時、代表者(会長)であった津山直一先生が急逝され、更に理事長(元院長)藤永数江先生も亡くなられ、役員の数減りが相次ぎ、混迷する事態となりました。常務理事として私は、木実谷哲史理事(院長)と北郷勲夫理事の三者で緊急協議をし、当面、常務理事山川を会長代理として東京都に届出し、合せて緊急理事会・評議員会を開催して承認を得ることにしました。これはあくまでも臨時的措置で、後日改めて人事を決める予定でした。当会では諸般の事情から会長<代表者>、理事長<会長補佐>、常務理事として運営されてきましたが、会長・理事長は紛らわしいので理事長に統一するよう東京都から指摘されていた為、これを契機に変更改正をしました。そして17年6月、会長<統括>吉原健二氏、理事長<代表>山川が選任され、以降再任を重ねて参りました。

去る6月21日開催の理事会において、新生社会福祉時代に向かい最も相応しい河幹夫理事を理事長に選任し、ご就任いただきました。私は12年間、理事長の大任を努めるにあたり、厳しい時代の中にあっても小林提樹初代園長の「人の『いのち』に差別はない、どんなに重い障害を持ってこの世に『生』をもった人も人になり変わることはない。『いのち』ある限り全うの人として人生を安全にかつ安心した環境の中で送ってほしい」という願いを私の使命として、皆様の温かい支えを糧に勤めてまいりました。



理事 山川 常雄

昭和36年6月1日にケースワーカーとして入職以来、これまで56年間多くの皆様からのご支援に支えられ、片時も忘れることなく重症心身障害児(者)とそのご家族の支えになれたならば、外に何ものもありません。ひたすら感謝の思いで一杯であります。本当にありがとうございました。